

[別紙⑫]

(1) 授業の流れ

① アンケート結果から考える。

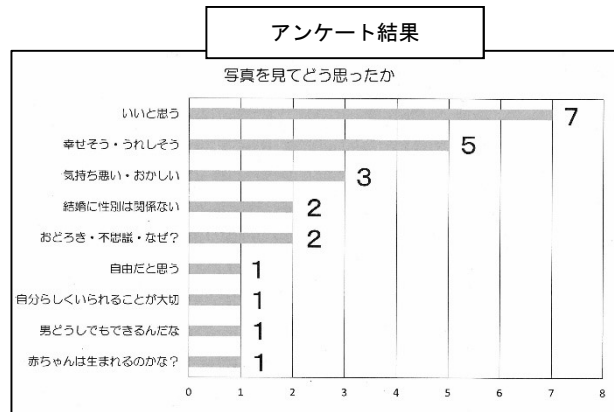
T: アンケート結果を見て思ったことを発表しよう。

C: 微妙に疑問というか、おかしいというか…。

C: 「気持ち悪い」まではいかんけど、身近にある結婚って、男性と女性が結婚するから、ちょっとだけ「なんで？」と思ったけど、後から考えてみたら、幸せなんだろうな。

T: 「おかしい」「変だな」という声が聞こえたら、この2人はどう思うだろう。ゲストティーチャーからお話を聞きましょう。

② 4つの性について知る。



ゲストティーチャーのお話

・ 「からだの性」とは、生まれた時に割り当てられた体のつくり、どういう体のつくりで生まれてきたかということ。男の子だったらおちんちんがついている、女の子はついてない。どんな体のつくりをしているかということ。

「こころの性」とは、自分が男性か、女性か、そうじゃないか分からないか、自分がどう思うか。自分が男性だと思えば男性でいい、女性だと思えば女性でいい。分からなかったら分からなくてもいい。変わってもいい。女性の体で生まれたけれど、心は男性だから男性として生きたい。そういうのをこころの性。

「好きになる性」というのは、誰を好きになるか、男性が女性を好きにならないといけなく、女性が男性を好きにならないといけなく、そういうわけじゃない。誰も好きにならない人もいるかもしれない。自分が男性で、男性も女性も好きになるかもしれない。どの性別を好きになるかということが、好きになる性。

「表現する性」というのは、服装とか、髪型とか、自分をどう呼ぶ方をするか、などが表現する性。

・ 女性の体で生まれたけれど男性として生きているとか。そうやって生きづらさ、悩みを抱えて生きている。他にも男性どうし、男性が好きだから一緒にいることに関しても、いろんな困りごとの悩みを抱えています。そういった所をみんなに考えてほしいと思います。疑問に思うことがあると思う。男性と男性って、どういうことだろうと。疑問に思うのはいいよ。でも結婚式している姿見たときに、「わー、気持ち悪い。」そんなことを言ったら、この人たちがどう思うか?ということを考えてないといけなく。男性が、女性の体で生まれて男性として生きていく人もいます。みんなは、出会ったこともないかもしれない聞いたこともないかもしれないけど、そういう人たちも、男はこうだ、女はこうだ、と言われたら悩みます。だって、男の人の服装は決まっている?女の人の服装のことは決まってる?でも、世の中には、いっぱい悩みを抱えて生きている人がいるということ、4年生の時に少し話をしたけれど、みんなに知ってもらいたいと思っています。

③ 悩みをもっている人が生きやすくするためにどうすればいいか考える。

- ・ 個性を認め合う。
- ・ 誰でも使えるトイレをつくる。
- ・ 人の傷つくことを言わない。
- ・ 自分が困っている人の立場にたってみる。
- ・ 行きやすくなるから、誰でも使えるトイレを僕ら自身も使ってみる。
- ・ 差別やいじめをなくしたり、周りの人と同じように接したりする。
- ・ 本人の思いを理解する。
- ・ いじめや人の悪口を言わない。
- ・ 性に悩んでいる人に相談できる人がいればいい。

班での話し合い



ゲストティーチャーのお話

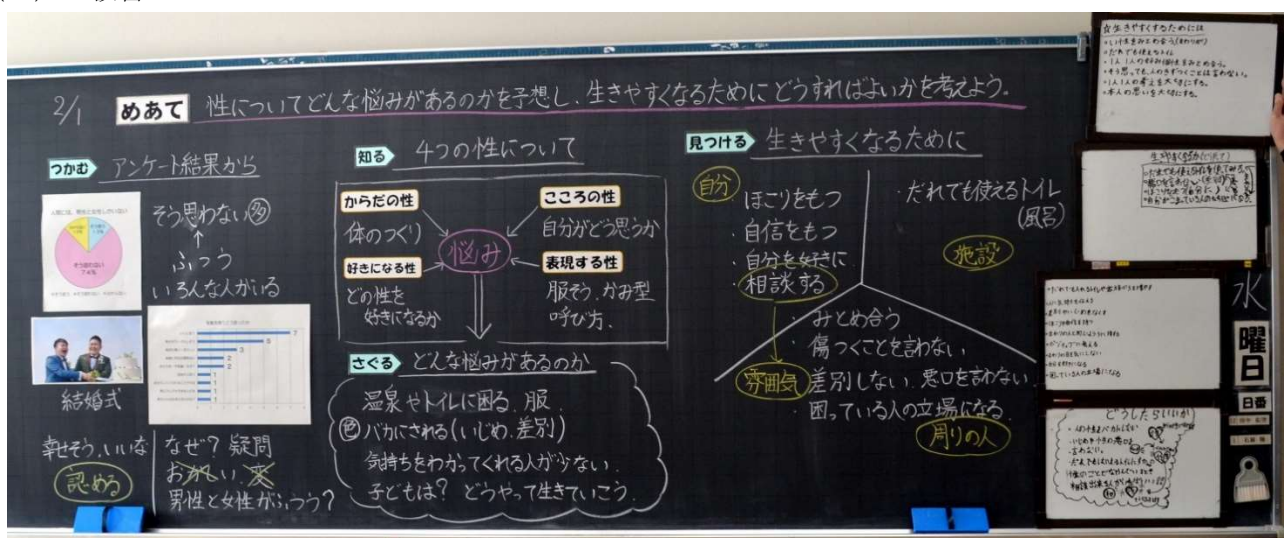
みんながどうやったら悩んでいる人たち、悩んでいる人たちだけでなく、どうやったら生きやすくなるかなということを一生懸命に考えられて、答えがなかったりして難しかったかもしれませんが、けれど、みんながそうやって一緒に考えることが大事。悩んでいる人たちだけが考えるんじゃないで、みんなと一緒に考えることが大事なんです。施設面でトイレを増やしたらいいとか、温泉増やしたらいいとか、人ごとのようになりがちかもしれない。性に悩んでいる人に、誰でも使えるトイレがありますどうぞ使ってくださいと言っても、使えません。なぜか、入ったときに、性に悩んでいる人と思われるんじゃないかと思うから。だからどうしたらいいかというと、施設を変えることが難しかったとしても、みんなができることは何か。そのトイレをみんなが使えればいい。みんながさりげなく毎日、毎日じゃなくてもいいけど、使っていたら、ここだったら1階にあるよね。1階まで行くのは大変かもしれないけど、下から上がってくるときにちょっと使ってみよかって、みんなが使っていけば、悩んでいる人も使いやすくなる。そういうことを繰り返しながら、悩んでいる人のことも考えてどうしたらいいかということを探っていく。みんな、一生懸命に考えてくれたことを、この場だけじゃないよ。今日授業でやったからこうやって考えたんじゃないで、日ごろの生活からも活かしてもらえたらと思います。ありがとうございます。

④ 今日の学習をふり返る。

児童のふり返り

- ・ぼくは、性について悩みがある人の気持ちになるべく寄り添うことが大切だと思いました。クラスにも性について悩んでいる人がいるかもしれないし、せめて相談だけでも聞こうと思います。
- ・今日の勉強で、いろんなことで悩んでいる人たちがたくさんいるんだなと思いました。
- ・悩みがある人とかには、差別やその人の悪口など絶対に言わない。
- ・私は、みんなの話を聞いて、私たちの学校では、性に悩みのある人が使いやすくなるようにしているんだなと思いました。
- ・性について悩んでいる人は、病気の人とかより悩んでいることがたくさんあると思ったし、自分が好きなようにできないこともあるかもしれないから、差別とか自分が好きなようにしていることに口を出さない方がいいと思った。自分が性に悩みをもっていないなくても、その人の立場に立って、今度から考えようと思った。
- ・ぼくは、その悩みをもっている人に対していろんな見方をしていたけれど、自分たちがすることや自分たちの態度でその人たちが安心することが分かりました。
- ・性に悩んでいる人たちがもっと生きやすくなるために、自分でできることをもっと見つけたいです。
- ・わたしは、みんなが生きやすくなるために、施設のことだけでなく、私たちにも関係があって、小さなことから、今日考えたことをやっていきたいと思いました。

(2) 板書



(3) 授業を終えて

「つかむ」では、自分たちのアンケート結果をもとに意見を出し合った。これまでの学習の積み上げの成果もあり、「人間には、男性と女性しかいない」という問いに対しては、8割の児童がそう思わないと回答した。また、男性どうしの結婚式の写真を見て、「やっぱり変だと思う」「身近にある結婚と違うからなんで?と思う」など、児童の素直な意見を引き出したのはよかった。そこから「なぜそういったことばを使ってはいけないのかを考えていこう」という課題を設定することができた。「見つける」では、「周囲がいろいろな生き方を認める」「差別をしたり、悪口を言ったりしない」など、生きやすくなるには周りの人の努力が必要だという意見が多く出たのもよかった。また、「だれでも使えるトイレを積極的に使っていきたい」という意見が出されるなど、今すぐに取り組めることに気付き、行動していこうとする意欲を高められたこともよかった。誰もが過ごしやすい社会は、多様性を受け入れて認め合おうとする人々の心がつくっていくものである。そのことを、この授業だけではなく日々の授業や生活の中で意識できるように、指導者側も人権感覚を磨いていきたい。

また、本時は、総合的な学習の時間「みんなの安心プロジェクト」の单元の中で行ったものである。「高齢者」「視覚障がい者」「聴覚障がい者」「性に悩む人」について、困り感を調査し、整理・分析して、自分たちにできることを考えるという流れで学習に取り組んだ。時間の関係で外部に向けて発信することはできなかったが、これから生きていく児童にとって有意義な学びになったと考える。本单元での学びを日常生活にいかし、誰もが安心して生活できる社会づくりに取り組んでいってくれることに期待している。

別の時間での取組 整理・分析

	高い者	視覚	聴覚
困っていること	視覚障がい者、聴覚障がい者、高齢者、性に悩む人	視覚障がい者、聴覚障がい者、高齢者、性に悩む人	聴覚障がい者、視覚障がい者、高齢者、性に悩む人
学校や地域での取り組み	視覚障がい者、聴覚障がい者、高齢者、性に悩む人	視覚障がい者、聴覚障がい者、高齢者、性に悩む人	聴覚障がい者、視覚障がい者、高齢者、性に悩む人